



平成31年度 No. 2

駒岡小学校だより

5月号

目と耳と心で

校長 中山 正之

学校だよりを発行するにあたり、表題に「平成」の文字を使うのは今回が最後になります。来月からは「令和元年度」と変わります。学校に届く各種の文書にも、予定の日時に「令和」という文字が多くなってきました。5月1日から私達の社会は「令和」の時代になることが、少しずつ実感できるようになってきました。

新年度の開始からまもなく一か月が経とうとしています。毎朝学校では、子ども達の「おはようございます」という元気なあいさつを聞くことができます。また、あいさつだけでなく、多くの子ども達が明るい笑顔を見せてくれます。始業式や入学式で「顔を上げてあいさつをしよう」と話しましたが、1年生から6年生までみんな朝のあいさつが本当に上手にできています。

さて、先日全校朝会を行いました。すべての子ども達が初めて体育館に揃う朝会です。入場の様子を見てみると、先に到着した高学年はごく自然と落ち着き、静かに待つことができています。その後入場してきた下の学年の子ども達も上の学年にならって、静かに並びました。初めて参加する1年生達もよくがんばり、上手に並ぶことができました。結局、全校が揃っても落ち着いた雰囲気は崩れることなく、とても静かな中で始めることができました。この日、私の話は「ありがとうの良さ」についてだったのですが、その前にこの落ち着いた雰囲気を全員が作れたことのすばらしさについても触れ、駒岡小の良さを改めて伝えました。それは「目と耳と心で聞く」ことができる子ども達だということです。

前任の松本校長先生は、朝会や集会の際に子ども達の前に立たれると、その冒頭で「皆さんは今日も、目と耳と心でお話を聞くことができますね。」と語りかけていました。そしてこれが「駒岡の宝物」とも話しておられました。私も過去二年間、副校長としてお話を伺いながら、子ども達のこうした良さを誇りに思ってきました。松本校長先生から語られてきた「目と耳と心で聞く」姿勢はまた、子どもにとっても自分達の「宝物」として自然と意識され、大切にされてきたように思います。新年度になり、新しく1年生が加わっても、2年生から6年生はそれまでやってきたように、静かに入場し落ち着いて開始を待ち、話す人に向かって「目と耳と心で」聞こうとします。それは言葉で説明するのではなく、自分たちにとってごく自然な姿を見せることで、1年生にお手本を示してくれているようにも見えました。きっと1年生達はこうした姿に接していく中で、少しずつ学んでいくのだと思います。さらに、先生達も全校の子ども達の前に立つと、お話の前にこの言葉を使って全体の意識を高めています。

「駒岡の宝物」である「目と耳と心で聞くこと」がこれから先も良い伝統となって続くように、学校全体で大切し、全員で努力していきたいと思っています。

